

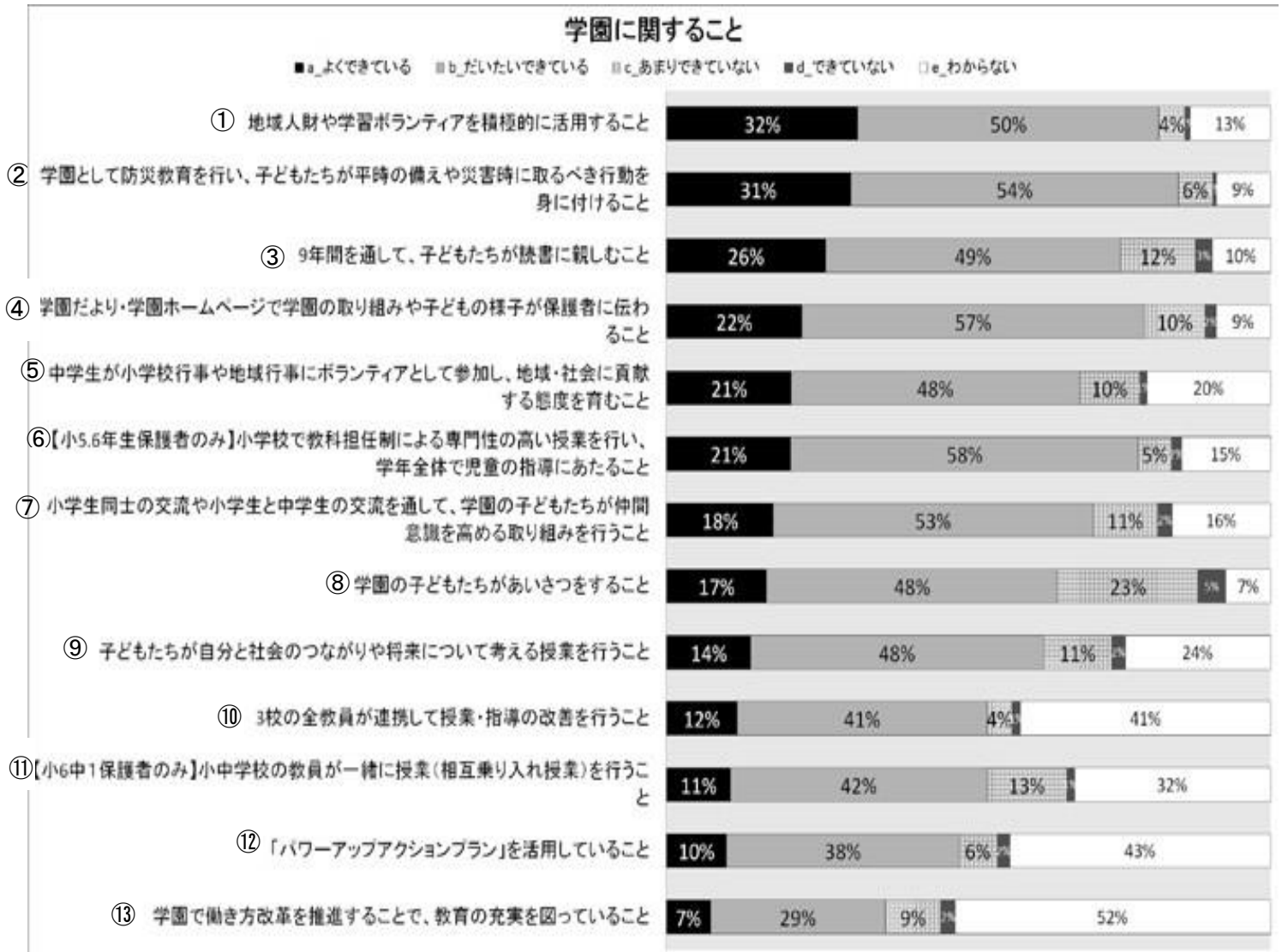
平成30年度 三鷹中央学園 学園・学校評価アンケートまとめ

【三鷹中央学園】

アンケート実施日： 平成30年10月24日～31日

アンケート対象者： 三鷹中央学園（三小・七小・四中）保護者

回収率： 1161世帯 / 1202世帯（96.6%）



アンケート結果から得られた課題

※「肯定的回答」…「よくできている」「だいたいできている」の合計
 ※「否定的回答」…「あまりできていない」「できていない」の合計

- 今年度は、昨年度から継続している同じ質問項目では、昨年度と比較して、肯定的評価の割合（いずれも過半数から9割近く）はほとんど変わらず、若干のポイント数の上下動がある程度でした。これは、学園としての継続した取組が児童・生徒に一層定着するとともに、保護者の皆様の理解も深まり、学校・学園と家庭・地域とのさらなる協働の結果となっていると考えます。しかしながら一方で、項目ごとの肯定的評価の中で総数では変わらなくても、「よくできている」のポイントが「だいたいできている」に移っている（評価が下がっている）項目があります。また、昨年度に引き続き、否定的回答が一番多かった⑧のあいさつについては、評価結果から、校内における教師以外の大人（保護者・地域など来校中の方）へのあいさつ指導に課題があることがわかりました。今後も児童・生徒の具体的な姿から成果や課題を検証し、保護者とも情報共有しながら協働する体制を強化していきます。
- 最も「わからない」の回答が多かったのは、今年から新しく設定された⑬の「働き方改革と教育の充実」の質問項目です。実際の施策が年度途中から始まり、保護者の皆様への説明が十分でなかったことが原因と思われる、課題としていきます。

平成30年度の【学園】の取組 成果と課題

成果

1 安定した肯定的回答の割合

- アンケートの13項目中7項目で、昨年度に続いて肯定的割合が7割を超え、特に、項目②の防災教育に関する項目で最も肯定的な回答(85%)が多くなりました。「防災の中央」として、学園独自の防災教育計画を策定し、様々な形で各校それぞれ児童・生徒に対する防災教育について力を入れている本学園としては、大変うれしい成果だと言えます。このことは、保護者や地域の学校教育への関心の高まりによる様々な情報の把握の推進、協働関係の一層の深まりによる教育活動へのかかわりと成果の実感のためであると考えます。

2 学園3校の連携・協力

- 三鷹市教育研究協力校として、学園研究主題「自ら考え、表現する児童・生徒を育てる指導の工夫～主体的・対話的で深い学びを取り入れた学習過程の改善～」のもと、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点を大切にして昨年度までの2年間、研究を重ねてきた成果を、今年度は実践につなげ、一層の授業改善を図る研究を重ねてきました。新学習指導要領完全実施まで小学校であと1年、中学校であと2年となった現在、来年度の「三鷹中央学園小・中一貫カリキュラム」策定に向けても大きな足掛かりができたと言えます。
- 学園の教員による5委員会や小学校の同学年同士の連携・協力により、学園生の交流活動(小・小、小・中)、児童・生徒代表者会議、学園あいさつ運動等に取り組みました。特に校種の異なる小・中学校間では、制度上の様々な障壁を乗り越え、これまで以上に学園の仲間意識、いじめ防止やあいさつの意識の醸成に成果が見られました。

3 地域人財や学習ボランティアを活用した学習活動や防災教育の充実

- 今年度も「9年間の防災教育計画」に基づき、コミュニティ・スクール委員会、(一社)みたかSCサポートネット、三鷹市防災課等と協力して、充実した防災授業を全学年で実施しました。計画に基づき、各校の実態に合わせて工夫を重ねながら行ってきたこれまでの成果が、学園評価結果にも現れています。
- 地域人財や学習ボランティアを活用する授業計画を一層工夫できるようになり、基礎的な学習内容の理解や体験的・探究的な学習活動など、学びが深まり、広がりました。授業協力者との打ち合わせから振り返りまで、緊密な連携と計画の工夫が年々よく見られるようになっていきます。

課題

1 あいさつを、安心して顔の見える関係づくりへとつなげます

- アンケートでは、昨年同様、学園生のあいさつを肯定的に評価している保護者の方が約3分の2です。三鷹中央学園生活指導重点目標である「あいさつは、自分から。返事は、『はい。』」を児童・生徒も意識している様子です。今回、児童・生徒に誰にあいさつをしているのかを聞いたところ、家族や友達、先生にはよくあいさつをしているものの、交通指導をしている地域やご近所の方、学校に来ている保護者など来校者に対しては、積極的にあいさつをしていない実態がわかりました。やみくもに、誰に対してもあいさつすることは防犯上からも勧められませんが、校内にいる大人の方や地域の顔見知りの方などには、自ら積極的にあいさつをし、普段から関係をつくっておくことの大切さを指導します。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

2 情報の提供方法の工夫と改善をめざします

- 情報提供に関しましては、発信の機会や方法を毎年改善するなか、保護者アンケートの肯定的回答は8割に上り、一定の成果は上がっていると思われます。しかしながら、依然として、「わからない」という回答が多いアンケート項目が複数あります。特にアンケート項目⑬の「働き方改革と教育の充実」に関する項目、⑫の「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」については、「わからない」という回答が4割から5割に達しています。なかなか取組や内容を意識付けできるような発信の工夫は難しいところですが、いずれの項目も具体的な例示を活用するなどして、身近なこととして感じてもらえるよう、引き続き改善を目指します。

3 学園3校の教職員の協働による活動を更に活性化させます

- 学園であることから、児童・生徒だけでなく、教職員も同様に学園の教員としての意識をもって職務にあたっています。しかし、アンケート結果から、その様子が十分に周りに伝わっていないことが課題であることがわかりました。3校の教職員の協働を一層推進するだけでなく、その様子を積極的に伝えていくようにします。